

急性胃病変の臨床

1988
作品ナンバー0283

日本医師会推薦 科学技術庁推奨 第30回科学技術映画祭科学技術庁長官賞

この作品は、胃壁内面の急性の出血、びらん、潰瘍等の病変を総称した急性胃病変（AGL）について、その成因、病態、治療について内視鏡の画像を中心にわかりやすく解説した医学映画である。



急性胃病変の成因には、飲食物によるもの、ストレスによるもの、薬剤によるもの、血管性変化によるもの等がある。

まず飲食物による急性胃病変を見てみよう。新入生歓迎コンパや忘年会シーズンになると、アルコール飲料の飲み過ぎや暴飲暴食によって血を吐いて病院にやってくる例に遭遇する。内視鏡的には粘膜出血の形が多いが、障害の程度によって様々な様相を呈する。最近流行の刺激の強い食品による急性胃病変も目立っている。

次にストレスの成因として、精神的ストレスが挙げられる。薬剤による急性胃病変は比較的多く見られ、最もよく発生する薬剤は解熱、鎮痛、消炎剤で、全例中の49.4パーセントを占める。ついで副腎皮質ホルモン剤、抗悪性腫瘍剤、抗生物質製剤が高く、漢方薬による例も見られる。

急性胃病変の治療は、その成因を取り去ることである。ストレスによる治療の主体は出血対策といってよく、内視鏡的治療としてはレーザー凝固等の方法が取られる。薬剤性の場合、粘膜障害性薬剤の使用を中止すると同時に、粘膜保護剤が投与される。急性胃病変の治療並びに予防には、粘膜付着性が強く保護的作用の確実なスクラルファート（アルサルミン）がよく用いられている。

記録
16ミリ
カラー／25分

- 企画
中外製薬株式会社
- 監修
旭川医科大学第三内科教授 並木正義
日本大学医学部第三内科教授 松尾 裕
- 協力（構成順）
虎の門病院内科 福地創太郎／日本大学医学部第三内科 相沢敏晴／旭川医科大学第三内科 原田一道／日本大学医学部駿河台病院内科 桑山 肇／虎の門病院内視鏡室／日本大学医学部付属板橋病院／東京都立衛生研究所／旭川医科大学第三内科／旭川市はらだ病院／日本大学医学部付属駿河台病院

スタッフ

- 製作
村山英世
- 脚本
杉山正美
- 演出
花崎 哲
- 撮影
豊岡定夫
- 音楽
角田 敦
- 解説
小林恭治